

語り継ぐ、明日へ。

歴史はいつも未来へのみちしるべです
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら
いつか来た道まで戻ってみましょう



夢がまった
高度成長の入口

フラフープもダッコちゃんも、現代では形や名称を変えて出回っていますから、日本での始まり、路地のこんな光景を懐かしく思うのはかなりの年配ということになります。アメリカ生れのフラフープの、日本の発売は昭和三十三年（一九五八）。ダッコちゃんは日本の玩具メーカーの製造で、販売は同三十五年のことです。時代は、経済白書が「もはや戦後ではない」と述べて高度経済成長の坂を上りかかる頃。安保で世の中は騒然としましたが、テレビや冷蔵庫、クーラ、インスタント食品など次々と現われる新しい文化に、子供たちも目を輝かせたものです。



- ・時の街角／旧武井商店酒造部 2
- ・マチの博物館／骨董タイネ 3
- ・あるはむレトロボリス／大通公園 4
- ・川筋を行く／石狩川 5
- ・来た道行く道／谷沢宝飾工芸 6
- ・道具で道草30年 7
- ・時計のある風景 8

二〇〇九年 春(第四回発行)

発行：(社)印刷紙工

札幌市中央区南十五条西十八丁目
TEL (011) 561-1159

編集：ひと街にこと刊行会

札幌市中央区北一条西十七丁目 北海道不動産会館四階
(向)編集工房 海内 TEL (011) 633-1651



時の街角

北海道開拓の村から

地域ブランド商品として親しまれている日本酒まさに地域の栄枯盛衰と共にあり
今日までに消えていった銘柄も数知れないでしょう
積丹半島の付け根で賑わった炭鉱町の
往時をしのぶ酒造会社の建物です

積丹半島の造り酒屋 炭鉱の盛衰と共に。

旧武井商店酒造部

明治十九年（一八八六）頃建築

いまではわずか十五社しかない北海道の酒造会社ですが、明治中期には三百を超えていたとか。主要な開拓入植地には、大なり小なり必ず造り酒屋が存在したであろうことは想像に難くないところです。

今回紹介する武井商店酒造部のあったのは泊村茅沼地区。泊村といえは積丹半島の西側の付け根。かつてはニシン漁で栄え、現在は原子力発電所で知られています。その茅沼地区は、本道最古だった炭鉱が昭和三十九年（一九六四）に閉山。石炭を海岸まで運び出す軌道が日本最初の鉄道とする説もあります。

鉄道については、木に布を巻いたレールを走るトロツコのようなものだっただけに記録とはならないようですが、炭鉱の発見は安政三年（一八五六）と古いものです。泊村の人口はいま約二千百人。炭鉱で栄えたころは一万人もいて、半数

が茅沼地区に住んでいたといえます。この商店が建てられたのは明治十九年（一八八六）頃。建て主の武井松兵衛という人は弘化三年（一八四六）、青森県の廻船問屋木下家の生まれ。十八歳の時に来道して武井家の婿となり、明治十八年から茅沼炭鉱輸出係として物品供給事務を掌握しながら、明治二十七年（一八九四）に酒造部兼呉服太物店を開業しました。



酒造一本になるのは大正二年（一九一三）で、戦争で酒造中止命令が出される昭和十九年（一九四四）まで続いています。銘柄は「松の露」と「玉の川」といい、明治四十年代初めにはそれぞれ百十石から百二十石を醸造していた記録があるそうです。

造り酒屋といふのはどこにあっても資産家で名士的存在です。工場と住まいが一体となった豪華な建築にもあまり例外はありません。この主屋は木造平屋建て一部二階建て。間取りは正面店舗を中心に茶の間、次の間、仏間、台所、流しなどがコの字型に配置された、一、二階互わ



せて百坪近い大きなものです。また外壁は下見板張りに寄せ棟の桼葺き、上げ下げ窓など和洋折衷も特徴です。平屋の工場には当時の酒造工程が再現されており、土蔵内の酒器や徳利、道内の酒造工場分布図などの展示と共に面白く見学できます。

外観とはまったく異なった印象の内部
当時の酒づくりの工程がよくわかる
帳場にもなつかしさが漂う



大人数で一度に食事できる台所・流しの間(下)から
正面の店舗方向を見る

※参考文献 北海道開拓の村・開村10周年記念誌



太陽堂

八番街

夢街道



寿屋雑貨店

谷地商店

たのし屋

6つのテナントで異なる商品の種類や年代。



ほしい人は何としても手に入れたい逸品のほんの一例。こゆつくりを賢くさい

● 六十年代洋品店「八番街」 商店や家庭で普通に使われていた食器や雑貨
 ● 七十年代レトロ「太陽堂」
 今ではあまり見られなくなったポップな雑貨

● 六十年代洋品店「八番街」 商店や家庭で普通に使われていた食器や雑貨
 ● 七十年代レトロ「太陽堂」
 今ではあまり見られなくなったポップな雑貨



店の中に「名店街」！ レトロ雑貨と 夢を売る。

わずか二十坪の店内に六つの商店が!!
 昭和の雑貨を集めたお店はたくさんありますが
 そのユニークな陳列に心が浮き浮き
 奥の「総合案内所」にいるのがオーナーです

● 駄菓子屋「たのし屋」
 子供たちにも大人気の
 たくさんの駄菓子類
 ● なつかし金物「谷地商店」
 どの家にもあった金物。なつかしい看板など
 ● ナチュラルスタイル「夢街道」 洋風、和風のアンティークな道具、雑貨類
 ● 一丁目の酒屋さん「寿屋雑貨店」
 横丁の角で何でも売っているようずや
 そして店の奥には総合案内所「一番街ビルディング」。なんとも夢があります。

もちろん商品の一つ一つにも谷地さんの強い思い入れ。この日「谷地商店」に陳列されていた、戦前に作られたという電蓄でジャズのレコードを聞かせてもらいましたが、「どうです、この音。針を落とした瞬間にタイムスリップしたようでしょう」とその瞳がきらきら。モノそのものより、同時に醸し出される雰囲気

を大切にしているそうです。
 お客は三十代から四十代の女性が多く、お目当ては食器など西洋風の実用的な雑貨。谷地さんによるとお店を営んでいる人にもっと来店してほしいとのこと。「コレクターなら一人の世界で終ってしまえますが、店に飾られると多くの人に見てもらえますから」。



国道5号線に面した店舗は赤と黄色の外観

マチの博物館

骨董テイネ

札幌市手稲区南三十三条二丁目八十一番六
 電話 〇二七九五・〇〇五
 営業時間 土曜・十七時
 定休日 月曜日・十三日・二十三日

天井には青空のアーケード
 突き当たりが総合案内所



昭和35年(1960)11月、街頭テレビを見る人々
政治面で騒乱の年だったが

昭和37年(1962)7月、テレビ塔から
円山方向まですっきり見渡される



あるばお レトロポリス

※写真／ページ下左以外は札幌市写真ライブラリー提供

昭和38年(1963)4月、西5丁目の
どかにコイのぼりが掲げられて



上 昭和28年(1953)西3丁目の花壇
下 昭和8年(1935)の西3(向こう側)、4丁目

大通公園

春の日差しに誘われて足を運ぶ、人それぞれの公園です
ところでその公園、古くからそこにありましたが
役割も存在も、明治の札幌開府以来変わっていない
全国に誇れる大通公園の今昔です

人の集まり、交流、憩い 明治から変わらない役割

どこにでもありそうで意外と他都市に少ない「大通り」という地名。それがそのまま公園の名前になっているのだから、「大通公園」といえば札幌市に決まっているほど。札幌

幌の都心部には東京より緑が少ないという人もいますし、一人当たりの公園面積は政令指定都市の中で第四位とはいえ、この素晴らしさは全国に誇ってよいでしょう。

その大きな要因の一つは、明治初期の札幌の街区形成のときから役割がはっきりしていたことによります。北の官庁街と南の住宅・商業地を分ける大規模な火防線として位置付けられ、その後は多目的に利用されてきました。

財団法人札幌市公園緑化協会によりますと、今日では一、二丁目が国際交流ゾーン、三丁目から五丁目までが水と光のゾーン、六丁目から九丁目までが遊び・イベントゾーン、十、十一丁目が歴史・文化ゾーン、十二、十三丁目がサンクガーデンゾーンという位置付けです。しかしそんなスマートなゾーン

グをしなくても、昔からさまざまな人の集まり、交流の場となってきたことは周知のとおり。都心のオアシスと呼ぶにふさわしい存在です。ただ、ここにも時代の流れは確実に訪れています。南北の街並みは大きく変わり、各種のイベントも大規模になりました。それだけにますます貴重なのが樹木。九十二種四千七百本が植えられているといいます。自分だけの季節の目印を持つてはいかがです。



西12丁目のサンクガーデン
20年前もあまり変わっていない

最新、平成21年3月の西3丁目
銀行の建て替えが時代を感じさせる



石狩川 八 (完)

大河のいま

川の流れば時の流れ― “北海四郎”と呼びたい。

七回にわたってみてきた石狩川のさまざまな表情
その流れ、自然の営みは太古からあるのに
変わったのも人、変えてきたのも人でした
これ以上、川も人も変わらないうために
いまある大河の姿を再確認しましょう

自分たちの住んでい
る近くを流れる石狩川はよく知っ
ていても、川の全体像となるとな
かなか描けないものです。
源は大雪山系の石狩岳。秀峰に

川筋を行く

人と川の
様々な
かわわりを
たずねて

路・函
館本線に沿
うようにさら
に

南下。札幌近郊に
たどり着いて、今度は
北へ向かって日本海へと
流れ出ていきます。

長さは信濃川、利根川に次いで
全国第三位の二六八キロ。札幌市や
旭川市など四十六市町村に及ぶ流
域面積も第二位で、北海道の六分
の一を占めています。

これだけ長くて広いと流域にお
ける川の役割は大きく、まちづく
りに役立てようと関係市町村で石
狩川サミットを立ち上げたのが平
成三年（一九九一年）のこと。二

年に一回、持ち回りでフォーラム
が開催されています。

その恵みは、都市部から離れた
ところでは全国有数の稲作地帯を
形成し、北海道の食糧自給に寄与
しています。また都市部にあつて
は親水空間、ウォーターフロント
としてレジャーや憩いの施設が多
く見られます。開発、洪水、そし
て公害と幾多の困難を乗り越えて
こうした今日の姿があることを思
い起こしましょう。

この先も、人に最も身近な自然
として変わらない姿を維持し
ていくのは住民の義務でも
あります。そのために
は、街を流れる支流
を“里川”として
位置付け、もつと



洪水、治水、自然、人との共生―
石狩川のすべてがわかる「川の博物館」
(石狩市新港南1丁目、231号線沿い)

川の流れば取りも直さず時の流
れ―人の生涯と重なります。

石狩川河口
長旅の果て日本海に
向こうに暑寒別の山々



来た道、行く道。

様々な先輩がいるからこそ
二十一世紀があるんだよ——
スローコミュニケーションを求めて。

本欄への自薦他薦を
お待ちしております。

オリジナルの携帯電話ストラップ
子供たちが「かわいい」と喜んで作る



伝統技能を受け継ぐ次の世代を育てていくためには、広く仕事の中身を伝え、時代にマッチした製品を作っていくこと——十八歳で東京に出て弟子入りして以来、宝飾工芸の道一筋に五十年という谷沢典雄さん（六八）。最近では、あちこちに出向いて技術指導を行ったり、指輪などのアクセサリ制作の教室を開いたり、あるいは修学旅行に体験学習が組み込まれた小中学生を受け入れたりと、講師役の多い日々となりました。

それだけに、自分の修業時代は親方いわれたとおりに作ってたけれど、今は技術プラス理論の時代。職人に学歴は不要といっても、国家試験にも実技と学科が

ありま
す。同
じ教える
にしても、
生徒を引きつ
けて上手に教えな
ければと、世の中の
動きに目を配るなど講
師としての勉強にも怠りありません。
谷沢さんがとくに可能性を感じている
のが子供たち。学校では四、五十分の授
業ごとにトイレタイムがあるのに、要ら
ないといつて作業に熱中。「職人は仕事の
キリのいいところで休むというのを喜ぶ
んですよ」と谷沢さん。昼ご飯といって
も食べない、止めない。付き添いの先
生も「こんな姿は初めて見る」と驚く
そうです。かわいいストラップなど、
学校に持ち帰ったら「どこに売ってい
るの」と聞かれ
るようなもの

将来ある子供たちに
職業選択のヒントを
提供するのにも仕事
（二〇〇六年十月、
札幌市立あやめ野中で）



ネックレス制作に集中する
各種アクセサリーの
色彩のイメージづくりに



オリジナルジュエリー工房
谷沢宝飾工芸
小樽市稲穂5丁目4-25
TEL (0134) 25-3820

真珠の形や色を頭に入れて組み合わせを



雑然とした工房だが50年の経験が一杯

50年の経験すべてを、 子供たちや女性に 教えることに専念して。

谷沢典雄さん——谷沢宝飾工芸



のも特徴とか。谷沢さんは「道具でゴンゴンやっていくわけではなく、うちは寄せ物といって細かいものをつくって、中に宝石をいれたりしているので、センスがすべて。女性に向いています」といいます。

そして小中学生から必ず出てくる質問が「どんな資格が必要なのですか」と「いつ資格を取りましたか」ということ。自ら一級貴金属装身具技能士であり、

をテーマにしていることも奏効しているようです。
また習いにくる女性の意外に高学歴な

職業訓練指導員免許も持っている谷沢さんには、常に自信を持って答えられるのは当然ですが、逆に学校での勉強の大切さを教える糸口にも

なりませぬ。「だって理科も数学も職人がいるから発達してきただよなものでしょう」（谷沢さん）。

指輪を見せてもらったことからでした。「それまでは物語の世界のものだと思っていましたから、ものすごく美しく見えたのです（同）。生まれた時から物に囲まれている現代の子供たちにとって「これだ」と歩む道を決める、谷沢さんのような新鮮な出会いはあるのでしょうか。なにとすれば、そうしたチャンスづくりを手伝う谷沢さんの、指導者としての仕事もまた貴重といえるでしょう。



使込まれた方ナトコ（鉄床）

道具で

道草30年

館内の展示物が持ち去られたケースは数知れないが、飛び込んできた車が貴重品をダメにしたのには驚くほかない。気持ちを奮い立たせて早い再開へ修復を急いでいるが……

坂一敬

レトロスペース坂会館・館長（坂栄養食品・開発部長）

節分の夜、レトロスペースの玄関口から、真っ赤な色のスリーナンバーのステーションワゴンが、飛び込んできた。

運転していた人によれば、旧五号線を札幌中心部へ走っていたところ、前の車がブレーキをかけたのでこちらでもブレーキを踏んだはずなのに、車が対向車線に飛び出してしまった。向こうから小樽方面へ走る車が来ているので、急いでハンドルを左にきったところ、車は歩道を越えて、建物に突っ込んでしまったと言う。

その結果、レトロスペースのレンガの壁は崩れ落ち、シャッターは破れ、後ろの自動ドアはばらばらになって飛び散り、窓ガラスの木枠はひん曲がり、模様の入ったガラスは跡形もなくなくなり、冷たい二月の風が中にじかに吹き込んで、……崩れ落ちた展示物の上をクローラーしている状態で、目もあてられない惨状を呈していた。

人身事故がなかったのは何よりのことだけれど、外から人が入れるありさまなので、ブルーシートを張るなどの応急処置と、歩道に崩れたレンガやガラスの後始末。それらを終えて家に帰り、布団に入れたのは午

夜の侵入「車」あり、失われた「モノ」たち想う。

前三時。若くない身にはこたえる長い一日だった。

翌日からかたづけがはじまったのだけれど、第一日は眠くて頭がボーっとしていた。展示物の被害は五十点を越え、その多くは、もう二度と手に入ることはないもの。惜しかった！

私が海岸炭と名付けた石炭の塊があった。石炭は普通、素手で触ると手が汚れる。しかし、塊が川に落ちて、海にまで流れていき、海岸の砂で長年に渡って洗われるうちに、角がとれて丸くなり、手で触っても全く汚れなくなつたものがある。綺麗なので一部では珍重されたよし。

これも碎けてしまった。金では買えないもの。「惜しかった」。

そして、私たちを一番悩ませたのは、車がぶつかった衝撃で碎けたガラスの細かい破片が一時的に空中に舞い上がり、それらが展示物の上に

ふりそそいだこと。まさに「ミニ・クリスタルナハト」。

掃除機では、取り除くことができず、ハケと手でやっつけていくしかない。二十日経った今もこれはまだ終わってはいない。

思えばレトロをオープンして今年で十五年。その間、心



貴重なコレクションも倒壊、ガラスの破片の雨



館長が支えていないとサトちゃんの首がボロボロレトロのマスコット哀れ

ない一部の人により、レトロから多くの物が失われた。

最初になくなったのは、南極で活躍したタロとジロのおきもの。首か

らそれぞれタロとジロと書いたプレートをつけていた。それがあの日、気がつくともなくなっていた。

岡本太郎の、万博の太陽の塔のミニチュアも消失。

フィリピンで作られたという、純銀製の大人の親指ほどの人形。（これは展示して一週間もたなかつた）表面にベッコウを貼った小さな写真たて。（これは本物のアールヌーボーで惜しかった！）アンモナイト。……これは普通

は、割つても泥しかつまつていないのだが、中には熱と圧力の関係で金属化して、黄銅色に輝いているものがある。ペリダントにでもしたら、

さぞかしと思うもので、東京で外人のバイヤーより入手したもの。十個以上あり、小型のケースに入れられていたのだけれど、ある日ケースごとなくなっていた。

レトロの原点でもある、下着をつけたマネキン。これもたびたび盗まれ、マネキンがヌードで肌をさらしている状態。スタッフがすぐに気づいて、追いかけたこともあるのだけれど、タッチの差で逃げられてしまった。それでやむなく二階にあげ、窓ガラス越しにとまっている。

なくなつていた。

レトロの原点でもある、下着をつけたマネキン。これもたびたび盗まれ、マネキンがヌードで肌をさらしている状態。スタッフがすぐに気づいて、追いかけたこともあるのだけれど、タッチの差で逃げられてしまった。それでやむなく二階にあげ、窓ガラス越しにとまっている。

なくなつたものは、かなりの数。しかし、盗みたくなるような物が置いてあるのがレトロと思い、うちのメインの一つでもある昔の鋳物のストープは、重過ぎて持つてはいけな

いだらうと言っていたのだけれど、……今回の車の飛び込みでそれが壊れてしまった。

全て完品だっただけに、惜しまれるし、もとはもどせない。

しかし、形があるものはいつか壊れる。

なくしたものをくやんでいても、しかたがない。人はえてして、なくしたものに目を向けがち。そのことで得たものもあるのだから、それをバネに新生レトロスペースを春にはオープンしたいと思つている。

（編集部）新生レトロスペースは四月中旬にオープンの予定です

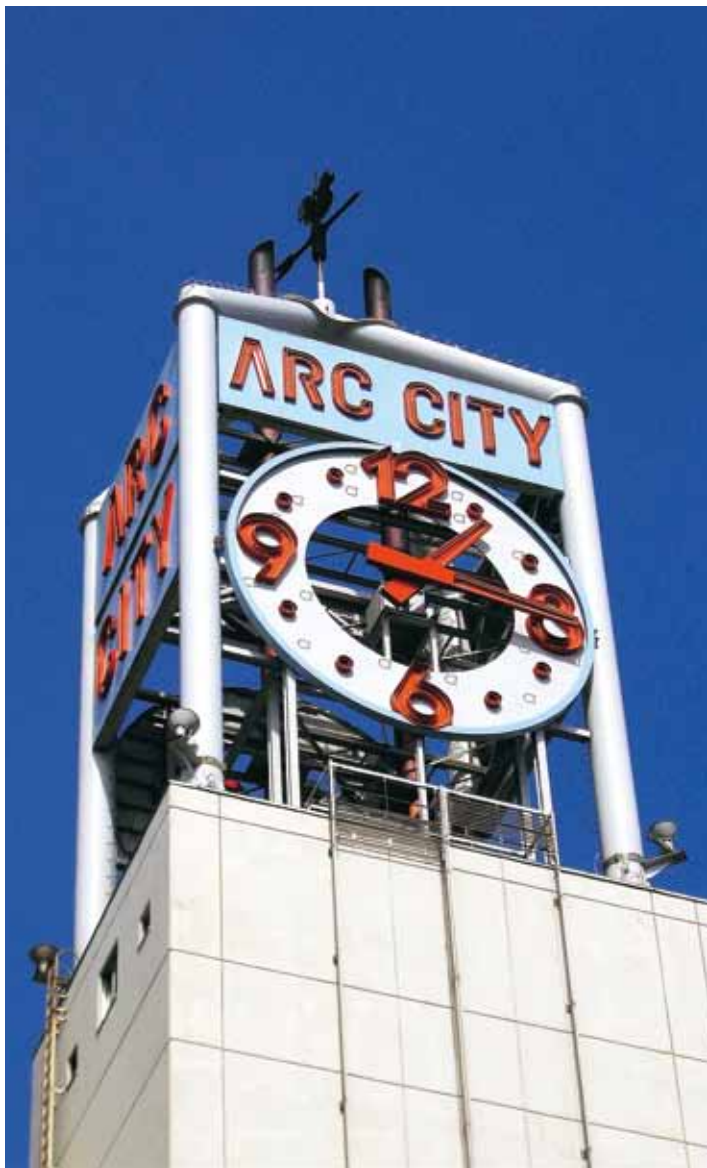
何かに追い立てられるように過ぎていく毎日。いつもそこにある時計に、足を止めることを忘れていませんか。

札幌の「東」の、アメニティゾーン。

近くに住んでいる人以外で、アークシティと聞いてどこにあるかわかるのは、いくつくらいの年代でしょうか。そもそも昭和四十九年（一九七四）にスタートした札幌東部地域開発基本計画。JR駅と地下鉄・バスターミナルを核とするその副都心



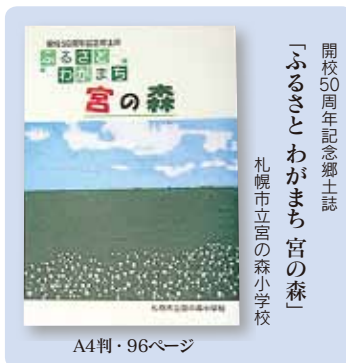
の、一大アメニティゾーンです。後背地は厚別区、清田区、さらには江別市、北広島市なども。ショッピングや飲食、娯楽施設、公的機関がそろっています。アークとは太陽の弧のこと。百九十九万人都市に東方から夢と快適をもたらしてくれる架け橋です。



Now Printing

●本づくりのパートナー
(社)印刷紙工

つくってみませんか
句集・歌集・詩集・小説・随筆集…
自伝・体験記・回想集…画集・写真集



人と地域とのつながりが薄くなってきている現代。その大切さをよく学び、強く認識しているのは、おそらく小学生であり、その父母たちで

しょう。札幌市立宮の森小が開校50周年を記念して制作したこの郷土誌は、その意味でも労作です。

いちばんの特徴は、昭和33年に学校ができるまでの、札幌市と宮の森地区の歴史にほぼ半分のページを割いていること。比較的浅い学校の歴史などに配慮してのことでしょうが、大人にも改めて復習の機会を与えてくれます。

続く第2章も、開校以後の地域と学校内外の移り変わりを併記。純然たる校史は第3章に年表となっています。生徒たちにはこのほうが、後々もよい思い出となることでしょう。

コラムとして円山や琴似川などの自然探索シリーズ、古い写真もたくさん載っていて、いかにも先生たちの手作りというやわらかな仕上がりがです。

居間で本づくりセミナーを

自分史など本をつくりたいと考えている人のために、出前の本づくりセミナーを承ります。三人以上のお集まりで会場をご用意いただけます。日時をご相談の上、印刷担当者や編集者がお伺いいたします。ご自宅の居間でも結構です。もちろん無料です。

記念誌は未来への道しるべ

企業や団体の十年を一区切りとする創立周年。二十周年、三十周年と歴史を重ねていく度にその歩

みを記録しておかなければ資料が散逸、功績のあった人も物故していきます。未来への道しるべ、歴史はきちんとまとめておきたいものです。企画、編集、印刷、どの段階からでもご用命を承っております。

小紙を無料で差し上げています

慌しい時の流れに、ほっと一息つける話題を提供していきたいと願っている小紙。ご希望の方には無料で定期的にお送りしております。印刷紙工までお申し込みください。